



No.128
(2026/7/1)

編集・発行：**教 育 課**

串本町サンゴ台690番地5

TEL 0735-67-7260 / FAX 0735-67-7326



表紙文化財紹介

いし とう ろう 石 燈 籠 (潮岬)

町指定文化財（建造物）
昭和58年4月10日指定

今月号の表紙は、本州最南端の潮御崎神社にある「石燈籠」です。潮御崎神社には計3基、町指定文化財に指定される石燈籠がありますが、写真は社前へ上る石段前に立っている一対のうちの一つです。

この一対の石燈籠には「明和三丙戌年（1766年）5月吉日施主大阪住北国屋太右衛門」と銘入りが施されています。北国屋との表記があることから、北前船系の船主が航海安全を祈願するのに建てられたのだろうと考えられています。

また、本殿前の石燈籠は旧串本町内で最も古く、丸竿型で中台や基礎に反花があり、本燈籠の名残りを留めています。

7月1日～7月31日は

第76回「社会を明るくする運動」

強調月間です



自分には何ができるのかを、みなさんで考えてみませんか。

■更生保護ボランティア

「更生保護」は、社会の中での立ち直りを導き、助け、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐ仕組みです。その活動には、保護司や協力雇用主をはじめ、たくさんの人たちが関わっています。

信じてくれる人がいること。必要とされる場所があること。

それは、更生への大きな支えとなります。更生保護は、社会に暮らす人たちが、広く関わることで達成される取組なのです。

■串本町内の取組み

串本町推進委員会では、重点目標に従い強調月間である7月を中心に年間を通じて、地域社会に貢献することを目的とし、次のような取組を行います。

- ① 地域社会における犯罪や非行の防止
- ② 更生保護活動への協力
- ③ 青少年教育の振興と協力
- ④ その他、目的達成のための活動

■「社会を明るくする運動」とは？

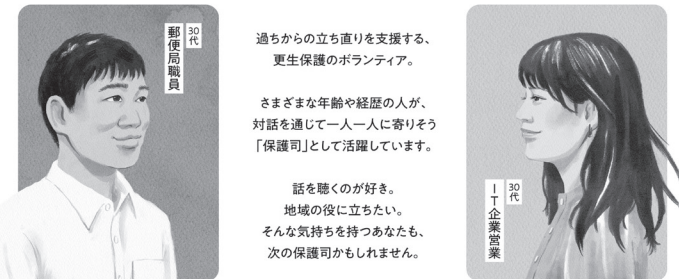
「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラはすべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

■地域のチカラが犯罪や非行を防ぐ

テレビや新聞では、毎日のように事件（犯罪）のニュースが報道されていますが、安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすためには、どうすればよいのでしょうか。取締りを強化して、罪を犯した人を処罰することも必要なことです。しかし、立ち直ろうと



保護司になるなんて、



過ちからの立ち直りを支援する、更生保護のボランティア。

さまざまな年齢や経歴の人が、対話を通じて一人一人に寄りそう「保護司」として活躍しています。

話を聴くのが好き。
地域の役に立ちたい。
そんな気持ちを持つあなたも、
次の保護司かもしれません。

思ってもみなかった。



犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

第76回 社会を明るくする運動 主催 / 法務省



7月は「社会を明るくする運動」強調月間・再犯防止啓発月間です。

決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることもまた、とても大切なことです。立ち直りを支える家庭や地域をつくる。そのためには、一部の人のだけでなく、地域のすべての人たちが、それぞれの立場で関わっていく必要があります。「社会を明るくする運動」では、犯罪や非行のない地域をつくるために、一人ひとりが考え、参加するきっかけをつくることを目指しています。

■あなたもできることから始めてみませんか

「社会を明るくする運動」では、街頭広報、ポスターの掲出、新聞やテレビ等の広報活動に加えて、だれでも参加できるさまざまな催しを行っています。イベントに参加したりホームページの閲覧などをきっかけにして、犯罪や非行のない安全で安心な暮らしをかなえるために、いま、何が求められているのか、そして、

第22回

串本町ゲートボール大会

5月20日サン・ナンタンゲートボール場にて、第22回串本町ゲートボール大会を開催しました(町教育委員会・町体育協会・町ゲートボール協会主催)

町内の5チーム(25名)が参加し、A・Bの2コートにわかれてリーグ戦形式で試合を行いました。

当日、参加者は競技を通して、親睦を深めました。

各チーム3試合の結果の勝ち数、得失点差で総合順位を決めました。大会の結果は次のとおりです。

【優勝】和深Bチーム

【準優勝】目津チーム

【第三位】橋杭チーム



準優勝：目津チーム



優勝：和深Bチーム

例年実施している「英会話教室」は毎月第1～第4水曜日に行われており、初級・中級のレベルから自分の学びたいレベルにわかれて学ぶことができます。初級の部では講師のALTの先生と最近あったことなどを英語で会話し、楽しく英語を学んでいます。

受講料は無料です。お気軽に文化センター(62-0006)までお問い合わせください。



「木彫り体験教室」が5月26日(火)から始まりました。

講師の杉本紘子先生が彫刻刀の使い方からわかりやすく指導しています。

第1回目では、希望のデザインを先生と相談しながら彫り進める方や、先生がデザインしたものを選んで彫っていく方などそれぞれ思い思いに彫刻を楽しんでいました。今回は5名の受講者が参加し、全6回で作品を仕上げる予定です。



公民館本館講座

図書館より 6月の新着図書

【一般図書】

◆桜葬

斎堂 琴湖

◆微笑み迷子

新堂 冬樹

◆世界の「なぜ？」がまるわかり！ 面白すぎる地理の話

瀧波 一誠

◆「リベラル」ではない人のための 憲法のお話

堀 新

◆赤毛のアンのクロスステッチ

堀内 さゆり

◆日日は植物

いとう せいこう
他

【児童図書】

◆あまがえる

こが ようこ

◆くさむらゆうびんきよく

いしはら ゆりこ／伊藤 夏紀

◆りおのおりがみ

由美村 嬉々／室井 さと子

◆やまの動物病院④

ハチは救急車ねこ
なかがわ ちひろ

◆ふしぎ駄菓子屋銭天堂

吉凶通り⑤
廣嶋 玲子

◆きみを変える50の名言

3期
芦田愛菜、倉本聰ほか

◆きみを変える50の名言

3期
佐久間 他 博

少年メッセージ2026東牟婁地方予選会

6月6日 那智勝浦町体育文化会館にて、東牟婁地方青少年育成県民運動推進委員連絡協議会、公益社団法人和歌山県青少年育成協会主催の少年メッセージ2026東牟婁地方予選会が開催されました。

少年メッセージは、中学生が日頃考えていることを発表することで、同世代の青少年が互いに理解し合い、郷土の未来を担う若い世代の育成を図る目的で実施しています。

この日は郡内から16校16名の中学生が発表を行い、審査員がその内容や表現力を審査しました。

串本町からは、林根夢さん（串本西中3年）、中村栞理さん（串本西中3年）、松下紗織さん（潮岬中3年）が参加し、審査の結果、林根夢さんが優秀賞に選ばれ、中村栞理さんが奨励賞に選ばれました。



林 根夢さん

優秀賞

「便利と不便」

串本中学校3年 林 根夢

あなたは、不便は好きですか？不便と聞くと

多くの人がマイナスのイメージを持つと思います。手間のかかることだったり、疲れることや不自由なことだったり、色んな形で生活の中に隠れている「不便」、



今回はそんな不便の良いところを皆さんにお伝えできたらと思います。現代社会は遙か昔からずっと、そして今も尚「便利」なものを作り出すことで進化してきました。汲みず

とも水を得る方法はないか、せっかく集めた食料が腐敗してしまうのをどうにか防げないか、長距離を長い時間移動するにはどうしたら良いか、こんなふうを考えて生活を便利にする方法を探し続け改良を繰り返してやっと、水道が生まれ、冷蔵庫が生まれ、車が生まれたのです。困難があるからこそ解決を求め探求し、人の生活は発展していきます。世界中の人々が多大な努力を注いできてくれたおかげで現代はとても便利な世

の中になりました。

そんな中、私は森の奥にある一軒家に生まれました。周りに街灯もご近所さんもおらず、エアコンもない水道は通っておらず電話をしたくてもスマホではできない、そんなお家です。夏には家族みんな暑さにやられてしまうし、自分たちで繋げた水道はメンテナンスしなくてはいいけませんし、不便だと感じることは多々あります。そんな家に住み続けて十四年、それ以上の月日を過ごしてきました。しかし不思議なことに私は不便であることを一度も嫌だと思つたことがありませんでした。都会に行き、あふれる多くの便利さと触れ合い、それを知ったとしても不便が不快と思えなかったのです。なぜなのか、その一つは大変な思いで得たその産物が、ワクワクと達成感で飾られ通常より輝いて見えるからだだと思います。私の家には炊飯器がなく、代わりに父の作ったかまどがあります。一度買ってしまったボタン一つで炊けるご飯を、私の家ではわざわざ薪を割り、火を起こして炊いています。するとどうでしょう、出来上がったご飯は驚くほどに美味しいのです。さらにもう一つ紹介します。それは、不便だからこそ見つけることができる発見があるということです。クーラーのない我が家だから、川は遊ぶだけではなくただ涼むためだけでも価値があるのだと知りました。そして夏は毎日川に通う、そんな夏休みを過ごしています。するとそこ

ではとても大きい鮎や手長エビを見られたり、桑の実を見つけたり、色んな発見をすることが出来ます。本当に些細だけど、私の生活をもっと豊かに、そして楽しくしてくれるそんな小さな発見の刺激に触れ合うことが出来るのです。もし私の家が暑さ対策バッチリだったら、出会えなかった発見があるかもしれません。私の知っている「不便」とはこのようにマイナスのイメージを持つだけのものではありません。あなたに料理やお菓子作りの経験がもしあれば、どう感じましたか。買えばすぐ食べられるのに、そう分かっていても頑張つて作ったものは、買ったものより美味しく感じませんでしたか。「楽」を選ばなかったのかえって喜びを得られたのは、その努力の結果に楽しさと生きる中で役立つ力を得られ、そしてたまにその過程で新たな発見ができる、そんな利点があるからなのです。

前述したように、この世には生活の手助けをしてくれる便利なものがたくさん増えました。そして、これからはもっとどんどん増えていきます。せっかく発展した世の中です、皆さんも文明の利器をたくさん使つて下さい。でも、たまに歩いてどこかへ行ってみたり、手間をかけてご飯を作ってみたり、ルンバに頼らず掃除を全部やってみたり、そんな小さな「不便」を味わってはみませんか。この些細な経験はきっとあなたの良い刺激となるはずです。

奨励賞

「儚い命の支え方」

串本中学校3年 中村 栞理

あなたは「命の儚さ」を実感したことがありますか？

もしかしたら心あたりがある人もいるかもしれない。私もそのうちの一人だ。昨年「命の儚さ」を思い出させる出来事があった。



私達は二年生のときに、福祉体験学習の一環として、車いす体験や高齢者疑似体験、認知症サポート講座など、「高齢者福祉」について様々な学習をしてきた。それらの体験をするたびに思い出したのは、祖父のことだ。

祖父は、私が小学三年生の時、階段で足を踏み外し骨折した。幸い命に別状はなかったが、しばらく入院となった。骨折した祖父は、若い頃に喉の手術をし、声が出なくなっていた。機械を喉にあて周りの人と話をしていたが、それでも正直聞こえづらかった。私が生まれる前に手術をしたので、幼かった私は、機械を使って話す祖父に何の違和感もなく、当たり前のように思っていた。今となっては思えば、機械があるとはいえず、生活しにくかっただろうと思う。自分の思いや気持ち、なかなか周りに伝わりにくい。理解してもらえない。

ない。聞き取りにくいときは、何度と言わなくてはいけない。なんてもどかしい。私ならイライラしてしまうかもしれない。そんな声が出にくい祖父が、足も悪くしてしまったのだ。もともと不便だったのに、もっと生活しにくくなってしまった。その時の祖父の気持ちを思うと、本当につらかっただろうと今なら想像できる。

しかし、私たちと会う時の祖父は、そんなつらさはみじんも感じさせず、いつもにこにこして、機械を使っているのにおしやべりをした。好きな野球のこと。庭の野菜のこと。祖父は物知りで、たくさんのかさを教えてもらった。自分のつらさを全く出さず、穏やかに生活している祖父はすごい人だと思っていた。

しかし、最近分かったのだ。足も不自由で話すこともままならない祖父が穏やかに過ごせていた理由が。それは、祖母の存在だ。祖母は、祖父が骨折する前から、聞こえにくい祖父の耳となり、丁寧に聞き取りをしていた。相手の考えていることが分からないのは、とても歯がゆいと思うし、私ならすぐあきらめてしまうかもしれない。

祖母はとても小柄な人だ。祖父が骨折で入院している時、車いすを軽々と押している様子を見たことがある。幼かった私は、「なんだか面白そう。簡単そうだから私も押してみたい。」と感じたのを覚えている。ただ単に遊び道具のように思ってい

たのだろう。しかし、去年車いす体験をした時、実感したのだ。車いすの操作の難しさを。坂を上り下りする時、スピードが出すぎてしまったり、段差を越えるときの力加減が難しく、肩こりや腰の痛みを感じた。乗っている友だちに「怖い！」と言われてしまった。

車いすに乗っていた祖父が穏やかな顔をしていたのは、祖母が祖父の気持ちを最優先に考えて、扱っていたからだ。その時気づいた。祖父が気持ちよく生活するために、祖母は上手にサポートしていたのだ。

退院しても祖父の足は動かなかった。家に帰ってからは、ほとんどベッドで寝転がっていた。祖父は声が出ないから、祖母が遠くにいるときは何も伝えることができない。足が動かないから、自由に歩き回ることもできない。もし、私が祖父だったら自分の思うように動けないもどかしさで、祖母などの周りの人にあたってしまうだろう。もしかしたら祖父もそうだったかもしれない。そんな毎日が続いていた。

ある日、祖母から母に連絡がきた。「祖父の体が危ない……。」と。母は泣いていた。私は父の実家に預けられ、母は急いで病院に向かった。

その日の夜に祖父は亡くなった。翌日の朝、私は祖父に会いに行った。肌は青白く唇も真っ青だった。亡くなった人を見るのは初めてで、まるで抜け殻のようだった。命は儚く、尊いものだと感じた。祖父が骨折して一年後のことであ

る。今まで家に行くと当たり前だった存在が、もういない。本当に寂しかった。祖父が生きているうちにもっと関わっておけばよかった。祖母がしている祖父の世話も、できるところだけでも手伝えればよかったと後悔した。

私の祖父のように体の一部が動かない、声が出ないなど、生活するのに大変な思いをしている人はたくさんいる。その人たちが過ごしやすように、車いすなどのツールが開発されてきた。これから必要なのは、それらのツールの使い方を知り、使える人を増やしていくことだ。その時忘れてはいけないのは、利用者の気持ちを最優先に考えることだ。人の命は儚いが、その中で生きる人々の幸せを支える、そんな人に私たちはなることができる。



前列着座が入賞者、林さん(前列左から4番目)、中村さん(前列右から3番目)、松下さん(後列左から2番目)

戦争体験談を募集しています

戦争を経験したことのない方が多くなった今、あらためて戦争の愚かさや平和の尊さを後世に残していくために、ご自身が体験されたこと、ご家族や知り合いから聞いたお話を教えていただけませんか。

当時の出来事を記録し、伝えていくことにご賛同いただける方がいらつしやいましたら、ぜひ教育課までご連絡ください。

■募集期間

7月1日（水）～8月31日（月）

■対象者

戦中・戦後に町内に住んでいた方や、その方にお話を聞いた方

■申し込み方法（①②のいずれか）

①作文にて提出いただける場合

教育課にご提出ください。内容は百字から千五百字程度まで、幅広く募集しています。

②体験談を語っていただける場合

教育課にご連絡をいただき、日時等を相談した後、平和実行委員がご自宅等を訪問いたします。伺った内容は、後日文字にまとめさせていただきます。

夏のびっぴをやる運動

夏休みは、青少年がトラブルや犯罪に巻き込まれる機会が多くなると予想されます。このため、7月及び8月を「夏の子どもを守る運動」期間と定め、関係機関はもとより、各種団体や地域社会が一体となって、青少年の非行防止・健全育成、犯罪被害の防止、水の事故や交通事故の防止等を図り、すべての青少年が「明るく・正しく・たくましく」育つよう、県内全域において集中的な取り組みを推進します。青少年を非行や犯罪被害から防ぐために大人は何をすべきか考えてみましょう。



大島プール一般開放について

■使用期間

7月2日（木）～8月31日（月）
10時～16時まで

■大島小学校プール水泳指導日

次の日は、大島小学校のプール水泳指導のため、貸し切りとさせていただきます。

【7月6日、13日】

13時から16時

■その他

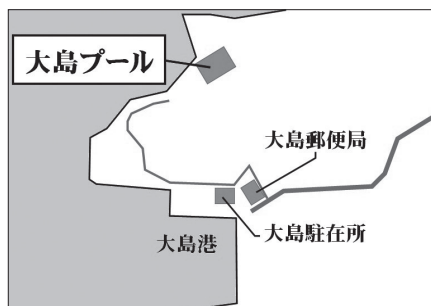
天候の状況等により臨時休業することがあります。

■お問い合わせ

教育課社会教育グループ
☎（67）7260

■定休日のお知らせ

※令和8年度から毎週水曜日・金曜日を定休日とさせていただきます。



大島プール使用料

区 分			料 金
町 民	中学生以下		無料
	一 般	個人使用	1人につき200円
		団体使用（10人以上）	1人につき150円
	高齢者・障がい者等		無料
上記以外	中学生以下		1人につき100円
	一 般	個人使用	1人につき300円
		団体使用（10人以上）	1人につき200円
	高齢者・障がい者等		1人につき200円

備考

- 1.入場1回の使用料とする
- 2.高齢者・障がい者等とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。
(1) 70才以上の者 (2) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の保持者 (3) 介護保険法の規定により、要介護状態又は要支援状態として認定された者
- 3.小学生未満の使用については、付添人があるものに限り許可する。

灯台

列車旅での思い出

2025年11月17日午前9時10分、タクシーで串本駅に到着。構内に入ると、何だか人だかりが。頭上に? (はてな) マークを浮かべながら改札口へ。「倒木のためくろしお16号は運転を中止しています。」という表示が。古座駅から乗車予定の友人に電話すると、「えー。今列車の中で電話取っている。」との返事。後で判明した事情によると、和深で倒木が発生。その撤去作業のため周参見く串本間で不通状態になっていたとのことだった。15分程遅れての運行になったが、白浜駅で調整してくれたおかげで「さくら」に乗車することができた。岡山駅で特急「しおかぜ」に乗り換え、目的地松山を目指す。途中、反対ホームにアンパンマンを描いた車両が停車しているのが目に入り、思わず「あっ。」と声を出してしまった。慌てて周囲を見回す。同類の匂いがしたのか、青森から来たという女性が通路を通りかかり「長いですね。」と声をかけ

てきた。

翌18日は、オープニングでソプラノ歌手、清水美千子氏による独唱を満喫。その後、記念講演「私が選んだ墨絵画家という道」を聞く。講師は、大阪芸術大学デザイン学科客員教授で墨絵アーティストの茂本ヒデキチ氏。スピード感あふれるダイナミックなタッチで描かれていく墨絵の世界に酔いしれた。筆の動きが止まった瞬間、会場全体が「ワァー!」という歓声と拍手に包まれた。完成した馬が生命を得て、今にも躍動しそうに見えたからである。

次に、様々なジャンルを自在に行き来するスタイルの中村仁樹氏による尺八演奏に感動。夕食時のオープニングアトラクションで二十五絃箏者いぶくろ聖志氏と共に結成した和楽器ユニット蓮—REN—の演奏



に心が満たされ、空腹感などどこかへふっ飛んでしまった。日本全国、世界中を旅し、大自然をテーマに和楽器の更なる可能性を追求し続けているだけの価値はある。

翌日は梅の実タイム終了後、見学研修「しまなみコース」へ。戦国時代、瀬戸内を自在に駆け巡った村上海賊に想いを馳せながらクルージング。「お客さん達は運がいい。」と船長さんに褒められながら、その日の天候と風向に左右されるという潮流と渦を観潮船から楽しんだ。一定の時を経て逆になる潮の流れに向き合い、時に抗いながらも自然と共生する術を学んで生きてきた人々の長い歴史と、知恵や工夫を島々の遺跡の中に垣間見たような気がする。

17時37分発の特急「しおかぜ28号」岡山行きに乗車するため改札口へ。チケットを入れて出ようとした友人の目前にストッパーが。「お客さん、日にちが違っています。」と駅員さんの指摘にあたふたと緑の窓口に駆け寄る三人。「別のところで購入されているので、こちらで特急券のみ変更できません。」と断られ、改めて岡山までの乗車券と特急券を入手

して、やっとの思いで乗車することができた。

翌日は、世界最古の庶民のための公立学校である旧閑谷学校を訪ねる。備前焼の本瓦葺きで棟に鯨を載せた一見中国風の正門をくぐると、中国から種子を持ち帰り、苗に育てられた学問の木「楷」がそびえていた。その奥には創始者、池田光政公を祀っている閑谷神社が。隣には金色に輝く孔子像が安置されている聖廟。次に十本の樺の丸柱で支えられた講堂へ。拭き漆の床は生徒たちによって磨かれていて、火灯窓から入る光をやわらかく反射させていた。今もここで正座して論語を学んでいると聞く。資料館への道を辿ると、上部が丸みを帯びた蒲鉾型の石塀が続いていた。なんと学校全体を取り囲み765mにも及ぶとのこと、独特の景観を生み出しており、驚かされた。

おそらく近隣の小学生であろうと思われる一団が歩いてきて、通りすがりの私たちにさりげなく「こんにちは」と声をかけて、講堂内に入っていた。

(山本 ちづき 編集委員)

令和8年度串本町 小中学生ポップコンクール作品募集

- 主 催 串本町教育委員会
串本町子ども会連絡協議会
- 主 管 串本町図書館
- 応募期間 7月14日(火)から8月14日(金)まで
- 応募資格 町内在住もしくは町内の小中学校に在籍している小学4年生から中学3年生まで
- 入 賞 小学生の部・中学生の部
各部門最優秀賞1点、優秀賞6点を予定
- 応募方法 応募票記載のうえ教育課、図書館、学校へ提出
- お問い合わせ先 串本町図書館(Tel.62-4653)

昨年度最優秀賞作品

【小学生の部】



【中学生の部】



陶芸教室のご案内

令和8年度陶芸教室を下記のとおり開催します。興味のある方はぜひご参加ください。

- ◆講 師 竹田 秀代 先生
- ◆場 所 串本町文化センター 実習室
- ◆受講料 700円(材料費)
- ◆日程及び内容
A教室 9月1日(火)19:00～ 造形工程
2日(水)19:00～ 削り工程
B教室 9月8日(火)19:00～ 造形工程
9日(水)19:00～ 削り工程
※素焼き等は講師先生が行います。
- ◆募集人数 A教室 10名/B教室 10名
(先着順といたします)
- ◆準備物 古いタオル、エプロン
- ◆申込受付期間
7月6日(月)～8月21日(金)
平日の午前8時30分～午後5時
- ◆申込先 串本町文化センター
(Tel.62-0006)

教育課よりお知らせ

第22回 盆野球大会

- 主 催 串本軟式野球クラブ協会
- 後 援 串本町教育委員会・串本町体育協会
- 期 日 8月15日(土)
- 場 所 総合運動公園野球場ほか
- 申込締切 8月10日(月)午後5時まで
- 抽 選 8月12日(水)午後7時から
串本町文化センターにて
- 参 加 費 2,000円
- 参加資格

- ・町内在住者、勤務者及び出身者
- ・串本軟式野球クラブに加盟されている方
- ・小中学、高校生の出場は認めない。
但し定時制高校生の出場は認める。
- ・大学(軟式、硬式等)、社会人野球に籍を置く者の出場は認めない。
- ・二重登録は認めない。

そ の 他

- ・天候等状況により急遽中止する場合があります。

お問い合わせ先 教育課社会教育グループ
Tel.67-7260

放送大学10月入学生募集

- 出願期間 第1回募集:6/10(水)～8/31(月)(必着)
第2回募集:9/1(火)～9/9(水)(必着)

■ポイント1 自分に合ったスタイルで学べます!

放送授業は、BS放送、インターネット等で視聴でき、また、パソコンとインターネット環境があれば学習できるオンライン授業もあります。講師から直接学ぶ「面接授業(スクーリング)」も多数開講され、全国57カ所にある学習センター・サテライトスペース等で他の学生と一緒に受講できます。その他、サークル活動や学生同士の交流もできます。

■ポイント2 目的に合わせて在学期間や科目を選択できます

興味のある分野から特定の科目のみ、1科目から学べます。また、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得し卒業すると「学士(教養)」の学位が取得でき、大学院で「修士」や「博士」の学位の取得も目指せます。

■ポイント3 学費を抑えて学べます

入学料は7,000円～、授業料は1単位6,000円です。入学料と受講したい科目数だけ授業料を納める形式になっていて、半年ごとに受講する科目の授業料のみを払う仕組みになっています。

資料請求・詳細は放送大学ウェブサイトにて
URL: <https://www.ouj.ac.jp>

お問い合わせ先

放送大学和歌山学習センター
〒641-0051和歌山市西高松一丁目7-20 ☎073-431-0360